



贈る人の思いを大切に
名前に込められた世界に一つだけのメッセージ

有限会社佐志生工芸村

生まれてきた子どもに、両親が一番最初にするプレゼント「名前」。大切な人の名前を詩で表現した「名前の詩の贈り物」「名前の詩 干支」は、一つとして同じものはない、心に響くオリジナル商品。誕生日や入学式、結婚式、還暦など、人生の様々な節目にピッタリな贈りものとして喜ばれている。

一生付き合っていく大切な名前。その人その人に込めた思いを詩に乗せて届ける。

大切な人の名前が贈り物に

緑に包まれた、深い山間の中に突如現れるドーム型の不思議な建物。ここは、オリジナルの贈り物を制作・通信販売する「アトリエ蕊(しべ)」と、アートカフェ「銀乃竈」からなる佐志生工芸村。

「アトリエ蕊」の「蕊」は、喜びの心・感動の心・感謝の心の3つの心をコンセプトに名付けられた。現在、14名がオペレーション、制作、発送などを担当。情報がクローズすることなく、それぞれの姿が見えるよう、壁のないオープンな作りになっている。

ここで制作している作品が、佐志生工芸村の代表 毛利達男氏が手がける「名前の詩の贈り物」と、息子の拓斗氏が手掛ける「名前の詩 干支.com」だ。

「名前の詩」は、大切な人へ喜びや感謝の気持ちを伝えるために生まれた、名前を感動の詩と絵で手作りする、世界に一つだけのオンリーワンプレゼント。贈りたい人の名前を頭文字にし、その人のエピソードや好きな物などを織り込みながら、



まるでUFOが着陸してきたような不思議な建物
建設当初は、近所の方たちの噂的だったそう



下書きは一切せず、頭でイメージしてから
一つひとつ心をこめて丁寧に描いていく

贈る人が贈られる人に対して、喜びの部分や感謝の部分の詩にして伝えるというもので、「名前の詩の贈り物」にはフクロウや招き猫、お地蔵さんなどの縁起が良いものを始め、ペットといった希望の絵柄を、また「名前の詩 干支」には、贈る人の干支をユーモラスに表現した絵柄を入れている。

作品は全て墨による手描きで、丸みを帯びた優しい字が特徴的。使う素材も、溜め漉きという方法で漉いた2cm厚くらいの和紙をプレスした特注品。作品を飾る額も、漆塗り、色物を始め、金沢の金箔を使用した高級感あふれるオーダーメイドのものを使用。どれも市場では売っていない、他では真似できない「完全オリジナル」にこだわっている。

作品展から火がつき、ネット販売へ

「名前の詩」の誕生について、毛利氏は「高校を卒業してすぐに百貨店に勤めていたのですが、物が溢れている環境の中で“心売る、思い売る”という商材を作りたい、と感じるようになったのが発端でした」と話す。百貨店を退職後、竹クラフ

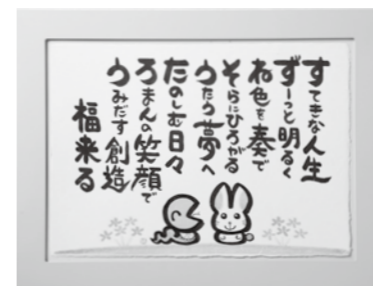
喜びの心、感謝の心、感動の心、を伝えたい

代表 黒彩絵師・うたびと 毛利 達男 氏

高校卒業後、百貨店に就職。その後、1979年に竹のクラフト「毛利クラフトマン工房」1986年に一閑張「STUDIO/KERI」を設立、1988年に統合し「有限会社 佐志生工芸村」を設立した。



毛利達男さんが描く「名前の詩の贈り物」



息子の毛利拓斗さんが描く「名前の詩 干支.com」

トの手仕事を経て、竹と和紙を使った一閑張の器や灯り、時計などの和インテリアにチャレンジ。全国の百貨店を回って作品展を行い、和紙に絵を書いたり、字を書いたりしたものと一緒に展示した。その際、お客様からメッセージをいただいて書く、ということを試みたが、「何を頼んでいいのかわからない」というお客様の様子を見て、何か良い方法はないか、と模索している中、ふと「名前を使ってそれでメッセージを伝えられたら」と思ったのがきっかけだ。それからは徐々に作品展での反応が良くなり、2002年9月からインターネット通信販売に着手した。

当初は、インターネットの環境は整いつつも、都心部に比べてまだまだ恵まれた環境にはなく、手探り状態だったという。そんな中でも、9月から三ヶ月の間に40件程の注文が入り、その後一ヶ月に50件、80件・・・と注文数も増え、改めてインターネットの威力に驚いたとか。それからはインターネット通信販売について独学で勉強。その甲斐あってか、ピーク時には朝2時から夜8時まで描いて、食事をしてからまた描いて・・・と1日中、商品と向き合う日もあったとか。

贈る人の思いを大切に

商品を作る上で大切にしていることは「贈る人の伝えたい思いを大切に、その部分をどう伝えていくか」ということだという。受注から発送までの流れはこうだ。

まず、どのような贈り物なのか、絵柄についての希望、贈り

たい人の思い出やエピソードなどを記入してもらい、それを元に詩を制作。この時点で贈り主に一度見てもらい、制作側と思いのズレがないかを確認してから制作に取り掛かる。完成した商品は、発送前に画像を贈り主に送っている。こうしたやり取りがあることで信頼関係も生まれ、よりお客様の要望に応えることができるのだそう。インターネット通信販売によくある“クリックしたら買える”とは全く別ものなのだ。

心の込められた商品に、贈った人、贈られた人からお礼の手紙が届くこともあるようで「それは一つのうちの宝ですね」と笑顔を見せる。今後も、手作り、手描きを基本に、何か新しいものを生み出せないかと考え中だ。

※作品は「名前の詩の贈り物」<http://namaenouta.jp>
「名前の詩 干支.com」<http://namae-eto.com/>
で購入できる。



商品を包む包装紙は、熨斗を含めたメッセージ入りのもの
これも一つの作品となりうる

企業データ

- 会社名 有限会社 佐志生工芸村
- 代表者 代表 毛利 達男
- 所在地 白杵市佐志生 木もれ美の丘
TEL:0972-68-3116
- 設立 1979年(1988年法人化)
- 資本金 500万円
- 従業員数 14名
- 業種 贈り物、ギフト製造販売、カフェ、ギャラリー
- URL <http://sashiu.jp>